

平成 25 年度 確かな学力の向上に係る実践的調査研究

学力向上実践研究 研究報告書

学校名 御所市立秋津小学校

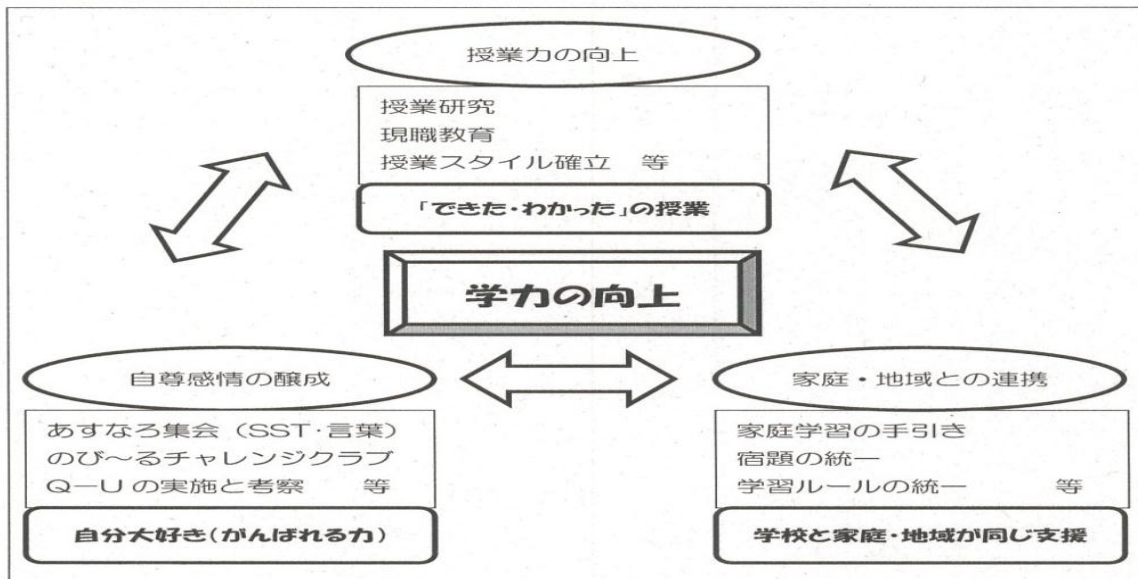
○研究テーマ ステップアップの学力向上(保障から向上へ)
～わかる授業からわかり合う授業をめざして～

1. 本校の研修テーマ

秋津小学校では、児童の実態を把握し、それに沿った取組が何より大切であると考えているため、年度の初めに児童の実態を全職員で出し合う研修を行っている。そこから出た実態を基にした計画を立て、今年度の取組を全体で進めてきた。

本校の児童の学力は今までの様々な取組の結果、奈良県学力診断テストを見ても少しずつではあるが向上しつつある。しかしながら、現状としては、まだまだ学力が向上したとは言い切れない部分がある。そこで、さらなる学力向上を図るため、まず基盤づくりとして「自尊感情の醸成」と「家庭・地域との連携(環境づくり)」に取り組んでいる。また、それらと並行して「授業力の向上」にも取り組んでいる。

○研修イメージ図

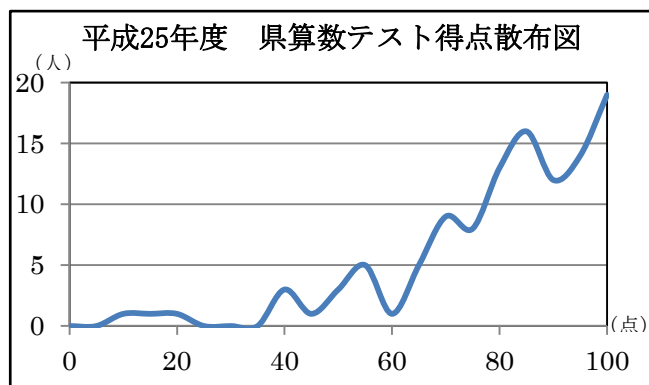
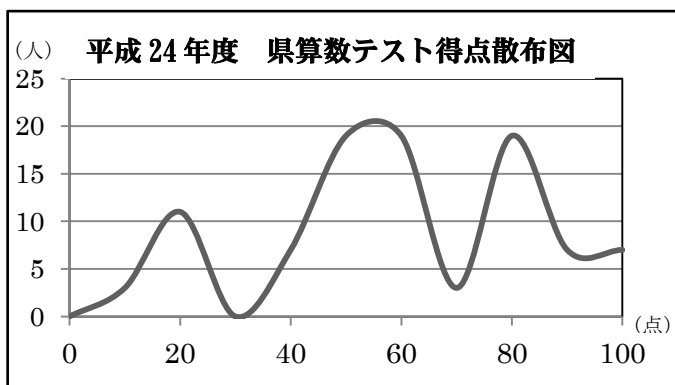


2. 本校の児童の実態

4月の研修では、「基礎・基本が定着していない」「自尊感情が低い」「図形や小数が苦手な児童が多い」「自力解決ができない」「基本的な生活習慣が身に付いていない」などの実態があがってきた。

次頁のグラフは平成24年度・25年度の県算数テストにおける得点分布図である。平成24年度のグラフは、三つの山の形状をしている。生活的なしんどさを抱える児童は、低得点の山に属している傾向が強いことがわかった。つまり行動面でのしんどさや、乱れた生活習慣、自尊感情の低さと低学力とが関

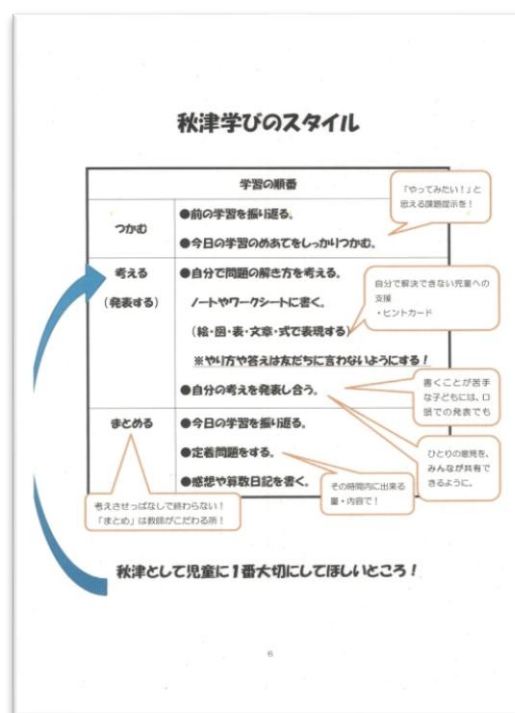
係している。このような傾向から正規分布へと移していくこと(ボトムアップ)から本校の取組はスタートしている。



3. 具体的な取組

① 授業力の向上

授業に関しては、「わかり合う授業」＝「児童自らが考えたことを学級みんなに伝え、互いに学び、わかり合う授業」を展開している。そのためには、学級づくりと授業づくりが重要になってくる。学級づくりでは、学習ルールを統一するとともに、誰もが意見を言え、互いの考えを認め合えることを大切にしている。また、学級経営などの研修も重ね、児童に合ったよりよい学級づくりを心掛けている。授業づくりでは、特に算数科を中心に取り組んでいる。今年度は、領域として「自分で考え判断し表現する(数学的な考え)」を特に大切にしている。そのために、秋津算数科のスタイルを作成し、実践している。スタイルは、①つかむ②考える③まとめるという授業の流れである。まず、①の「つかむ」では、学習課題をしっかりと掴ませ、学習の見通しをもたせる。②の「考える」では、既習の内容を利用し、自力解決させる。そして自力解決した内容を全体で共有する時間をしっかりと設ける。また、児童の様子に合わせ、効果的にペア学習を取り入れ、互いに学び分かち合う。③の「まとめる」では、学習のまとめをするとともに、評価問題に取り組み、より確かな力となるようにしている。また、T・Tで授業を行い、よりきめ細やかな支援と指導を行うとともに、授業の前にはしっかりと児童の反応を予想し、それに合った支援ができるようにしている。もちろん、知識理解、技能も大切にしている。朝の始業前の時間を利用した「のびーるタイム」では反復学習をしている。算数科を中心とした、「わかり合う授業」のスタイルは、他の教科でも活用している。さらに、教員同士が授業を見学し、意見を出し合う研修週間、わかり合う授業のための校内授業研修・授業づくりの研修を積極的に行い、教員の力量を高めていけるよう努めている。



② 自尊感情の醸成

主な取組



あすなる集会

「ふわふわことば チクチクことば」

・あすなる集会

自尊感情を高める取組として、あすなる集会（月1回の全校集会）では SST（ソーシャルスキルトレーニング）を中心に行っている。人とうまく関わるためのスキルを身に付けたり、自分（友達）のことをもっとよく知ったりすることでより快適に学校生活を送ることができる。また、集会で行った内容は、再度実態に合わせて各学級で取り組み、より効果が上がるようにしている。

・のび〜るチャレンジクラブ

のび〜るチャレンジクラブという放課後学習支援では、一人で宿題ができずに困っている児童や、学校の授業についていきにくい児童などが、すぐに先生に聞ける環境でゆっくり、しっかり、じっくり安心して学習することができる。児童が「できた」という感覚を味わうことができるため、自尊感情が醸成されていく場となっている。



チャレンジクラブの様子

・のび〜る大作戦

基本的な生活習慣が身に付いてない児童の実態の改善や生活習慣向上のために「のび〜る大作戦」という生活チェックシートを作成した。項目は「歯みがき」「朝ごはん」「家庭学習」「早寝」の4項目からなる。「毎日歯みがきできた」「家庭学習をがんばれた」という気持ち生まれ、それを保護者や教員に褒めてもらえることで、さらにやる気アップにつながった。

その他にも、「のび〜るエリア」という自分の頑張ったことや得意なことを紹介する掲示板を設けたり、「ほめる」ことの効果についての職員研修を行ったりしている。また、定期的にQ-Uアンケートを行い、その結果や最近の様子を教員で交流することで、学級経営や児童とのかかわり方に生かしている。



あきつっこ のび〜る だいさくせん!				なまえ!			
11月	12月	か	よ	11月	15日	か	よ
いほで	よるおし	あまごはん	はみがき	いほで	よるおし	あまごはん	はみがき
ペンぎょう	までになした	までになした	までになした	ペンぎょう	までになした	までになした	までになした
した	した	した	した	した	した	した	した
した	した	した	した	した	した	した	した
した	した	した	した	した	した	した	した

のび〜る大作戦

③ 地域・家庭との連携

・家庭学習の手引き

学校で習ったことを家庭で復習することは基礎・基本の定着に欠かせない。本校の実態としては、家で宿題しかしていない児童が多く、自分で学習するという習慣が付いていない。そこで、4月の家庭訪問のときに、各家庭に家庭学習の手引きを配布している。学年×10分を目安に家庭学習の大切さを各家庭に啓発している。

その他にも、学習環境を整えるという意味で、3年生以上の漢字・算数ドリルは同一のものを使用し、宿題の出し方を統一したり、学級での学習ルールを統一したりすることで学年が変わったときの段差を少なくするようにしている。また、机・イスの高さを学期ごとに点検し、正しい姿勢で学習できるようにしたり、授業に集中するために学級の全面掲示をなくし、後方へ掲示したりもしている。



家庭学習の手引き

4. 成果と課題

Q-Uアンケートの結果を見ると、生活支援群にいた児童が生活満足群へと移り、それとともに学力テストの平均点が上がった。また、算数アンケートでは「算数の授業がよくわかる」「わからない問題があっても諦めずにいろいろな方法を考える」などといった項目で肯定的な回答が増えた。

しかしながら、まだまだ学力が向上したとは言えない部分もたくさんある。どの取組においても1年間行っただけで身に付くものはなく、継続していくことが大切である。毎年児童の実態をしっかりと把握し、それに合った取組を継続・発展していくことが求められる。

県算数テスト3年間の比較

